

平成28年度第1回 富士見市こども家庭福祉審議会会議録要旨

<日時> 平成28年7月4日(月) 午後1時30分～3時30分

<開催場所> 市民福祉活動センターぱれっと会議室

<出欠状況>

関	矢島	石川順	増淵	林	田中	岩田
○	○	○	欠席	○	○	欠席
増田	南	石川泉	細野	熊谷	小森	大川
○	○	○	○	欠席	○	欠席
田村	子安					
○	○					

<事務局>

子ども未来部長 子育て支援課長 保育課長 みずほ学園長
 子育て支援課副課長 保育課副課長

<傍聴人>

0名

<次第>

1 開 会

2 あいさつ 子ども未来部長・会長

3 議 題

(協議事項)

(1) 子どもの貧困対策整備計画について

(2) 子ども・子育て支援事業計画について

(3) 平成28年度保育所入所・放課後児童クラブ入室状況について

(4) その他

4 事務連絡

5 閉 会

<議事>

(協議事項)

(1) 子どもの貧困対策整備計画について

・実態調査及び計画策定について

～事務局より説明

・調査票について

【会 長】実態調査の内容を審議する前に、このアンケートは富士見市教育

委員会が作成したものなのですか。

【事務局】 今回のアンケートは、富士見市と教育委員会の連名で実施し、所管は子育て支援課でございます。

【会長】 富士見市と富士見市教育委員会の両方で作成したアンケートと言うことをご理解のうえ、各質問項目についてご意見等伺っていきたくと思います。

・アンケートの対象児童について

【委員】 「0～22歳のお子さんがある世帯へ」となっておりますが、22歳は法律的に子どもになるのですか。児童福祉法による子どもの定義は18歳未満となっているではありませんか。

【事務局】 新聞やメディア等で貧困が取り上げられていますが、児童養護施設に入所している間に働く力を付けないまま、18歳で施設を出されてしまうお子さんがかなりいらっしゃるのが現状のようです。後見人もなく、住むところもなく、賄い付きや寮があるような仕事に就ければよいのですが、出された子ども達そのまま貧困の連鎖となる例や報告も挙げられています。

【委員】 親がいて児童養護施設に入っている場合と、親がいなくて施設に入っている場合など、子どもを取り巻く環境は様々あると思うのですが、そのようなことは施設に対応・対処の別の調査ができないのですか。

【事務局】 市内にどのような状況の方達がいるのかの実態調査をしたいと思っております。例えば児童養護施設から出されてしまって、富士見市で一人暮らしをしているお子さんがいらっしゃるかもしれません。また、大きな課題としては、大学の奨学金の問題があります。在学中に貸付を受け、卒業して社会人になった時点で、例えば300万円もの借金を背負ってスタートし、さらに大学を卒業しても正規社員ではなく非正規で働いた場合は、貸付の返済がのしかかってくるなど、非常に大きな問題となっております。そのような実態の部分把握するには22歳まで調査をした方がよいのではないかと考えました。

【委員】 お金をかけたこのようなアンケート調査は滅多に出来ないと思うので、特に22歳の奨学金問題などが、この機会にどのくらい市民が答えてくれるかと言うのを、行政として拾える唯一のチャンスではないかと思えます。

【会長】 成人や子どもなどの定義とは別で、本調査での22歳までの意味付けは貧困の実態と言う枠組みで捉えた場合に必要があるという事務局の意向であります。よろしいですか。

委員一同異議なし

・多子世帯の場合について

【委員】世帯に出すわけではないのですよね。お子さん一人一人に出すわけですか。

【事務局】いいえ、世帯に出します。

【委員】世帯の場合、多子の場合もありますよね。個人名ではないのですよね。

【事務局】封筒の宛名は、「(お子さん氏名) の保護者様へ」となっており、そのお子さんについてお答えいただきます。

・22歳までのお子さんに対する質問項目について

【委員】各質問について、22歳の方のことも親が回答・記入することですが、親が全て把握しているか、無理があるのではないか、疑問に思ってしまう。

【委員】親の保護が必要なお子さんを対象にしているという理解でいいのではないですか。確かに中学生・高校生以上になると回答の差はあまり出なくなるのかもしれませんが、それが実態・実情なのではないかと思えます。

【事務局】メインの目的とするところの実態調査と、付随的な部分とがあり、相対的に高校生等の傾向が把握出来ればと考えております。ご回答いただく保護者様には、ご理解のうえご回答いただければと思います。

【会長】子どもと言っても22歳までを対象にすると、親が答えられないような設問もあるかもしれませんが、未回答のままであってもアンケートですから許容範囲として進めていくことで、よろしいでしょうか。委員さんからご指摘があったような年齢的なものはアンケートでは重要な要素なので、疑問・意見が出るのが当たり前ではないかと思えます。疑問等を把握しながら、事務局は本アンケート作成をお願いします。

・アンケートの回収率を上げることについて

【事務局】回答・回収率を上げるためには、回答しやすいアンケート内容にすることも重要だと考えます。学歴や収入、世帯全体の各種税金・社会保険料を合計した概ねの総額など、回答を躊躇するような質問が見られるのが気になる場合、その質問は削ることも考えられますが、富士見市の現況を正確に知るには、このような質問も必要だと考えます。委員の皆様が、このアンケート調査内容をご覧になってみて、回答を躊躇するような部分はなかったでしょうか。

【委員】食事に関しての間4・問5「朝ごはん・夕食をどれくらい食べていますか。」で、母親が食事を作らないと言うケースが多々あるわけで、設問の内容的に含みを持たせておかないと難しいのではないですか。

【事務局】この設問「朝ごはん・夕食」については、誰が作るかや買って来た物なのかなど、そのような点もききたいという意見が出ております。今後、設問内容に関しては変わる可能性があります。

【委員】難しい漢字が非常に多いので、途中で回答するのを止めたくなる人もいるのではないかと懸念します。難しい漢字にはふりがなを振ったり、ひらがなにするのはどうでしょうか。

【事務局】漢字全てにふりがなを振ってみたところ、とても読みづらくなってしまいましたが、全てではなく特に難しい漢字はひらがなにすることなどを考えてみたいと思います。

【委員】アンケート後半で「給与明細や源泉徴収票をご確認の上」などと書いてあると、回答をそこで止めたくなる方達がいるのではないかと思います。また、アンケート内容全体を通して固さを感じてしまいました。

【委員】しっかり答えていただければ、成果もよいものになると思いますし、表現をもう少し和らいだものにするとういと思います。

【委員】どのくらいの回収率を目指しているのですか。

【事務局】30%程度を目指します。

【会長】私達委員からの意見はいろいろ出しましたので、事務局での検討をお願いします。それでは、実態調査・アンケート内容につきましては、ここまででよろしいですか。

委員一同異議なし

(2) 子ども・子育て支援事業計画について

- ・進捗状況調査について
- ～事務局より説明

【会長】事務局からの説明によりますと、＜シート1＞(例)の「(F)委員意見」が委員の意見を記入する欄となります。「(E)進捗状況及び課題」と「(G)平成29年度値」は担当課の職員が記入します。シートは、このような形式で進めてよいですか、ということですか。

【事務局】はい、そうです。

【委員】私達が、(F)を書く際には、(E)は記入済みになっているのですか。

【事務局】はい、記入済みになっています。

(3) 平成28年度保育所入所・放課後児童クラブ入室状況について

～事務局より説明

【会 長】事務局より説明がありましたが、何か質問等がありますか。本日は状況報告のみで、次回から待機児童について、どのように工夫・努力をしたのか、またはするのかを話し合っていくかと思います。

【事務局】私達も、この数字が出来るだけ無くなるように、施設等を毎年のように造り続けておりますが、なかなかこの数字が0にはなりません。1桁台になったこともありますが、どうしても2桁が続き、現実には厳しいものがあります。しかしながら、0及び解消を目指して改善・努力を続けて参りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(4) その他

特になし

4 事務連絡 事務局

5 閉 会 副会長